

森下章司委員の意見・コメント

- A（保存）遺跡・遺構の劣化状況、保存処置の緊急性は明らかです。
- B（保存）土地条件等から、実施可能な保護処置の手段は限られてくるかと思えます。
- C（保存・整備）Bである一方で、本遺跡の本質的価値・特色としてあげておられる「遺跡の発見から市民が大きく関わってきた」（資料 5-3（5）・（6））は重要だと思います。当方に知識がないこともあります。現状のような整備がなされた経緯や意図を整理し、尊重・十分に踏まえた上での今後の計画策定が必要と考えます。
- D（保存・整備）2009・2010 年度の調査において、丘陵全体に遺跡の範囲が広がることが確認されたことは重要だと思います。遺構提示が尾根上に集中している現状から、広範囲を視野に入れた新しい形での整備が必要になると考えます。C への対応にもなるかと思えます。ハイカーの通路との調整にもなるかと思えます。
- E（調査・活用）弥生時代の高地性集落論は、近年、注目されています。現在の学問水準から会下山遺跡を再評価する調査研究のひとつとして（資料 5-4（1）「調査の継続」）、出土したガラス玉や鉄器の自然科学的分析を希望します。鉄器については、X 線写真撮影や必要な分析を通じて再検討できればと思います。可能であれば、発掘調査も必要になるかもしれません。そうした成果を広く公表して、市民の関心を高めてゆく一助とされてはいかがでしょうか。
- F（整備・活用）維持管理や普及活動の拠点として、三条文化財整理事務所の展示や活用法の整備が望まれます。ハイカーの探訪が多いことを利点として活用し、文化財保護普及と両立できるような施設にはできないでしょうか。
- G（整備・活用）遺跡の真上を多くのハイカーが通ることによって遺構の保護に問題が起きている事例として、高松市の史跡・石清尾山古墳群があります。現在、整備計画が進められています。ご参考まで。